

## バイサイドアナリストへの期待 —日本版スチュワードシップ・コード原則7の意味—

三瓶 裕喜

### 目 次

- |               |             |
|---------------|-------------|
| 1. はじめに       | 4. アナリストの活動 |
| 2. アナリスト活動の目的 | 5. 課題       |
| 3. アナリストの育成   | 6. 終わりに     |

バイサイドアナリストに期待されている重要な役割は三つある。一つは、投資（候補）先企業の投資価値を算定すること。二つ目は、算定した適正と思われる投資価値と想定するリスク、可能性のある別シナリオなどを考慮し投資見解を決めること。三つ目は、投資実行後の重要ファクターのモニターである。情報収集、財務分析、経営者との面談、全てその目的のために行っている。企業経営者と機関投資家のエンゲージメントは、この基本活動を基礎として行われる。まず、その道のプロとしてやるべきことをやった上でなければ、エンゲージメントの効果がないどころか、双方とも時間の無駄に終わる。

### 1. はじめに

構造物に例えると、アナリストの活動はエンゲージメントを支える重要な基礎工事部分であると考える。こうした認識の下、「企業と証券アナリストの対話の実例シリーズ」において、筆者はアナリストの基本活動について紹介したい。

本稿で述べる機関投資家としての視点は、筆者の現職を含めこれまで勤務または提携先として関

わってきた米英の運用会社5社での経験を念頭に置いている。したがって、それ以外にも様々な考え方や視点があると思うが、それら全てを網羅しているわけではないことを断っておく。

### 2. アナリスト活動の目的

(1) セルサイドアナリストとバイサイドアナリスト  
証券アナリストには主に、証券会社に勤務し、



三瓶 裕喜 (さんべい ひろき)

フィデリティ投信ヘッド オブ エンゲージメント。1987年早稲田大学理工学部卒業。同年4月、日本生命入社。海外現法・国際投資部にて外国株式アナリスト、ファンドマネジャー。英国投資顧問現法CIO / CEO、ニッセイアセットマネジメント投資調査室長、国内株式統括部長兼運用室長を経て、07年よりフィデリティ投信にてディレクター オブ リサーチ、17年より現職。経産省 企業報告ラボ企画委員、「伊藤レポート」プロジェクト委員、金融審議会専門委員他、各種研究会・検討会等に参加。一橋大学 CFO 教育研究センター 財務リーダーシッププログラム学外講師。「投資家フォーラム」共同設立、運営委員など。